

総務文教常任委員会 一般会議

- 1 日 時：平成 26 年 1 月 10 日（金）10：00～11：40
- 2 場 所：委員会室（市役所 2 階）
- 3 出席者
 - (1) 総務文教常任委員会（8 名）
司会：村井公平委員長
記録：岡崎義樹副委員長
委員：古西祐子、坂部武美、浅田康子、宮崎春貴、村井正信、中川正則
 - (2) 民生産業常任委員会（5 名）
高橋博久、岩崎貞典、村岡栄紀、高瀬洋、東野敏弘
 - (3) 西脇小学校の木造校舎を想う会（5 名）
前川貫治代表、岡本芳雄、越川誠司、西脇裕晃、村上史路
 - (4) 傍聴人（4 名）
- 4 以下、会議概要

村井公平委員長：あいさつ

新年あけましておめでとうございます。本年が皆様にとりまして最良の年になりますようご祈念申し上げます。さて、この度西脇小学校の木造校舎を想う会の方から議会に対し、一般会議の申し入れがありました。議会といたしまして総務文教常任委員会でお聞きし、その他の委員会、想う会の方にも出席していただきました。そういった形で開催させていただくため、皆さんには早朝から出席していただきました。

今回の一般会議は、西脇市議会では初めての開催ですので、不備な点があると思います。基本は皆さん全員が委員として参加していただいています。会議がスムーズに進行できますようご協力をお願いいたします。本日の司会の進行を進めさせていただきます総務文教常任委員長の村井公平です。記録は副委員長の岡崎議員です。

今回の申し入れにつきましては、西脇小学校の木造校舎の問題について、自由な意見交換の場ということで、申し入れを受けております。まとめや結論は出せませんのでよろしくお願いいたします。先般申し入れがありました回答を会議の前に前川代表に渡しております。議員の皆さんには机の上に置いてあります。教育委員会にも申し入れをしておりますのでよろしくお願いいたします。

各議員及び「想う会」：自己紹介

前川貫治代表：資料説明

一般会議の資料を見てください。過去 2 回委員会で説明しています。時間的な制約もあり、膨大な資料ですので、抜粋して説明をします。今年 1 月 7 日に想う会のメンバーが和歌山の高野口小学校に行きました。11 月 10 日の勉強会に花田先生と腰原先生をお迎えして、勉強会のアンケートの中から西脇が栄えた時代に後世のため、自らお金を出し合って作った建物を、国の補助金を充てにして、そう簡単に壊していいのかという部分を受け止めていただきたい。

景観形成重要建造物では赤字で示した箇所が県のHPからの抜粋です。21条の11では西脇市は景観を損なわないよう維持管理に努めなければいけない。所有者が変更を加える場合は知事に届けなければいけない。知事は優れた景観が損なわれる恐れがあると認めるときは必要な指導や助言をすることとあります。

西脇小学校は木造校舎の良さをそのまま残している。景観では現役は西脇小学校ただ1校だけです。

視察していただいた篠山小学校・八上小学校は耐震改修だが、どちらも景観物ではない。規制されてないのが改修して、規制されているのがなぜ建て替えが先行されるのか疑問だ。身近でありすぎて現状がわからないのか。2010年以降TVにも出演している。

耐震補強ですが、愛媛県日土小学校は西脇小学校と同じ数値です。屋根や床や基礎の補強ですが、基礎が無筋コンクリートに鉄筋を入れて補強しています。これも国が認めている工法です。西脇小学校において耐震改修は11月10日の時にも花田先生・腰原先生は十分できると言われています。この2人は日本を代表する木造校舎の分野の研究者です。太鼓判をいただいています。

木造校舎は鉄筋にない良さが沢山あります。子どもたちのストレスを緩和させ、授業に集中力が増す効果があります。まるまる木でできているのが木造校舎。側が鉄筋で中が木でできているのが木質。RCは鉄筋です。木造も木質も広く感じます。インフルエンザが抑制される。結露もせず怪我也少ないという分析結果です。木製の机とスチール机では木製の方が注意集中の困難さは木製の方が優れています。スチールの方が悪い。同じ面積でも木質の方が広く感じます。居場所では非木質では好きな場所はないが、木質では廊下、階段を挙げている。特性では木質の方が湿度調整するので、インフルエンザが抑制されます。学級閉鎖でも木造の方が少ない。

教師のストレスですが、RCの方が多く、精神的蓄積も木造の方がストレスが少ないという調査結果が出ています。岐阜県上之保小学校ではRCと木造校舎が共存しています。ここでも木造校舎が優れています。学校環境調査では眠気とだるさや注意集中の困難さでは、いずれも木造校舎の方が優れています。以上の所から木造校舎を残す方が費用的にはるかに安いことがわかりましたので検討すべきかと考えています。

岡本芳雄さん：資料説明

もう一つの資料を説明します。資料は高野口小学校などに学ぶ勉強会の資料です。これまでの西脇小学校の勉強会の内容です。木造校舎の耐震保存改修例をあげています。写真は西脇小学校の校長室にある写真で航空写真と正門の門柱にある景観形成重要建造物のプレートです。

続いて2009年6月5日NHK放送「美の壺」で放映された資料です。文部科学省のウェブページにある「既存学校施設を有効活用する」についての詳細の説明です。そこにも使い続けることの重要性が書いてあります。

今まで使ってきて、どこが不便か、どのように改善したらいいのか、目の前にモデルがあり、リフォームできる木造校舎を前提としたことを書いています。

先日このメンバーで高野口小学校を見学してきました。上の写真は児童昇降口です。そこは雨や風が強い時、靴が濡れるので、その対応に昇降口が3か所設け

てあります。手洗い場は改修され各教室の前に設置されています。以前は外にあったトイレですが、改修工事で校舎内にリフォームされ、一つの教室を男子女子と分けて設置されています。トイレの横には更衣室も設けられていました。天井ですが、学習環境では暗いイメージがあり、オリジナルの白い天井を設けています。そこには配線や換気ダクトを設けています。家庭科室では二つの教室を合わせた形となっています。コンロの上の天井も換気ダクトを設け、床面も、ガスの配管や電気配線の二重構造となっています。パソコンルームも床や天井が二重構造です。柱や建具の色が違うのは、竣工当時から、新たに付け加えた部分ができるようにオリジナル部分と改修部分を明確にしています。

愛媛県の翠小学校は、建築様式も耐震改修もプロセスも全く違うので、ここでは例として挙げていませんが、エコ改修とした国の決定した事業にのって、すべての窓がペアガラスで、太陽光発電、風力発電、太陽熱温水器が設置されています。外観からしか確認できませんが、ペレットストーブの排気口が各教室に配置され、LED照明なども使用され、エコの最先端の校舎でした。

村井公平委員長

「想う会」からの説明が終わりました。今から会議を進めてまいります。会議といっても意見交換であります。総務文教常任委員会の皆さんは昨年末に篠山市立八上小学校と篠山小学校を視察しましたので、この所感等も踏まえて質問していただきたいと思います。

越川誠司さん：質問

先日の篠山市の方へ視察していただいたとお聞きしました。私たちは八上小学校の方を一度夏に訪問しましたが、現在篠山小学校が改修工事をしている状況であります。両方のお話をお聞きしたい。特に篠山小学校の様子についてお聞かせいただきたい。

村井公平委員長

委員の皆さん、どういう感想を持たれたか順番にお願いします。

岡崎義樹副委員長

私は西脇出身ではありません。大阪の方で過ごしていました。その時に学んだ学校が木造校舎でした。その時のことを懐かしく感じておりました。今年の2月に初めて西脇小学校に行きました。通常改築といえば、ほとんどが鉄筋コンクリートですが、木造校舎ということで西脇小学校を訪問した時の木の匂いが、本当に懐かしく落ち着いていいなと感じました。

今回の視察地である八上小学校ですが、ロマン風というか明治ロマン風の景観がとても綺麗でした。この学校が76年前の建物かと驚きました。篠山小学校は城跡に隣接して、老朽化が進んでいるなと感じました。補強についても基礎の資料のように、膨らませた構造と聞き、城の横なので重機による基礎部の工事が難航なのかなと思いました。工期が2か年で、これだけ古い建造物の保存など本当に感動しました。

今回、西脇小学校の問題が上がっていますが、私自身も木造校舎に通った経験

もあり、愛着もあり、ワックス掛け等の経験もあります。今回いろんな形で検討課題もたくさんありますが、そのように保存していることが本当にすごかったです。

古西祐子議員

西脇小学校の問題ですが、当初は耐震率が低いので建て替えになることが7月ごろに発表されました。視察した八上小学校と篠山小学校は、木造校舎でありながら耐震補強し、木造校舎を残すことを現実的に進められた。

耐震率が足りないという理由だけで、木造校舎を全面建て替えにする理由にはならないと感じました。

八上小学校は、耐震補強が終わって新しい状態となり、非常にきれいな校舎だと感じました。特に、校舎がまちの生活道路に面した所にあり、地域の方の日々の生活の中で目に触れるところにあり、まちの景観に溶け込んでいる。だから八上小学校では建て替え問題は一切ありませんでした。木造校舎をそのまま残して耐震補強するのが、当たり前という風な流れでしたので、建て替えの論議はなかったと聞きました。それは生活道路に面した所にあるということが大きかったのではないかと感じました。

先ほど前川代表があいさつの中で、竹田城の話をされましたが、あまりにも身近すぎて、その良さに気付かないのではないかと言われました。西脇小学校は、身近とはいえ市民には見えにくい場所にある。その違いがあるのではないかと思います。

西脇小学校がもう少し道のそばにあれば、市民の人たちが毎日目にするようになるのでその違いがある。西脇小学校の方は身近ではない。そこが違うと思いました。

篠山小学校で感じたことは、建物は西脇小学校の方が景観的に美しかった。平成23年に立ち上げた検討委員会に、花田先生と腰原先生がメンバーとして参加され、現在、改修工事がされているにもかかわらず、検討委員会が続けられていることに驚きました。

坂部武美議員

両小学校を視察しました。基本的にRCも木造もそれぞれの良さがあります。なぜRCから木造に移ったのかということを知りたいと思っていました。古西議員も言われましたが、八上小学校ではそういう声が地元にはなかった。木造ありきの中で、篠山小学校も篠山城の景観の中で基本的にRCにはできない。要は木造ありきの中でやってきたことが大きい。実際にRCも考えたが木造に親しんだという学校の視察に行きたかった。

八上小学校は、柱だけ残して後はほとんど変えている。木造校舎というだけ。柱だけでそれ以外はほとんど残していない。それでも木造校舎はあり得るのか。では西脇小学校も今度どうするのか。「想う会」の皆さんはどういった残し方を思っておられるのか。

中に入ると隙間風が入るが、快適性では果たしてどうか。西脇小学校は、快適性からいって、そういった隙間風が入らないようにするのか。

篠山小学校はこれからですが、アルミサッシを使っている。これも景観の一つ

ですが、西脇小学校は3棟残さないとも景観が損なわれる、1棟だけ残しても意味がない。残す中でどのような使い方なり、学校にしていくのか。木造であろうとRCであろうと工事をするので、後は使い方の問題か。

写真を見せていただいたが、木造建築するのと変わらないのではないか。新築の木造の2階建てもあり得るのか。それをすると景観的な問題になるのか。なぜ木造にしたのかの理由がなかった。地元の皆さんが愛着を持っている学校だから、そのまま残しましょうということ、それなりの使い方をどのように作っていくかが議題と思われる。

浅田康子議員

私は篠山生まれの篠山育ちです。篠山小学校出身ではないですが、身近に八上小学校も篠山小学校も感じながら育った。八上小学校は改修後も段差があった。バリアフリーにできなかったのか。改修後も階段がそのまま残っており、障がい児の生徒を受け入れるには、デメリット部分が残ったという感想を持ちました。

八上小学校は視察に行かれたとのことですので、篠山小学校について、西脇小学校と根本的に違っていることは、篠山小学校はお城の城内にありますので、建て替えることはまず考えられない。景観の規制があって、高い建物が建てられない。移転をするにしても、周辺に16校の小学校があり、お城を囲んでいるので、そこへ移転することも不可能である。

もう一つは、篠山小学校を含めた篠山の観光資源の一つとして、観光地の一翼を担うということがある。篠山小学校を建て替え、移転するという選択肢はなかったと思いました。何としても、このままの状況で、この位置に小学校を存続させるためには、耐震補強工事をする以外に、選択肢はなかったのではないか。そのあたりが西脇小学校と大きな違いであると感じました。

宮崎春貴議員

12月の視察は、他の公務があり出席できなかったため、現地の様子はわからないのですが、いろいろ気になり、専門家の方にお聞きしました。

西脇小学校に使われている材木は、千年持つと言われました。千年と言え、日本古来のヒノキの木造をイメージし、米松で持つのかと思いましたが、柱は、米松の中でも目の詰まったすごく良い柱を使っているため、十分持つと言われました。それが改修ということになれば耐震もできます。

ただ現役の学校ですので、防火対策についてどうかとお聞きしたら、多分、中は全部変わってしまう。その対策をすれば、どんな形になるのかとお聞きしたら、木骨構造という形になるのではないかと聞かれました。そうすると木造で残るとされる方にとって、中身が全部変わるような建て方でも良いのか、気になりました。

ただ現役の学校ですので、生徒が生活しています。私の家も木造なので、それは個人の責任となる。西脇小学校には400～500人の子どもが通っていますので、そのあたりのことも考えますと、防火という点では中身が変わります。今からは窓ガラスがペアガラスということになりますが、どういう形になるのか尋ねますと、木造サッシにできると言われていました。そのような改善はあるみたいです。私は専門家ではないので、そういう点はよくわかりませんが。

村井正信議員

私は技術的なことは別にして、文化的な面で、今まで八上小学校の場合は、昭和12年から木造校舎を営々と地域の人が自らの努力で続けてこられた。そういうものを残していくことが、教育としての本来のあり方ではないかと思いました。ただ単に、便利ということだけで鉄筋コンクリート構造にしていくのはどうか。個人的には、子どもたちにとって「本来、不便の中でみんなの協力性を培っていく」ということが、教育のあり方だと思います。

私は、今回の学校問題から、八上小学校を見た時に、そういうことを残しながらやってくらえたのだろうと痛感しました。

中川正則議員

八上小学校について、木造校舎の耐用年数は35年ぐらいの周期で、メンテナンスしなければいけない。そうでないと大掛かりな修復工事を伴うということがわかった。昭和12年に建設され昭和63年に改修されています。そのお陰だと思いますが、Iwの値が0.4から0.7と、しっかりした中で改修がされ、価格的に安く済んでいた。途中のメンテナンスが非常に大事である。

篠山小学校については、現地で耐震補強し、学校として使わなければならない。現状がモルタル張りで、外壁をそのまま残すと言われるので、これが木造なのかという感覚を持った。それでも直さなければいけない。瓦も石州瓦で、今焼いているのか現物が入ってこない。一枚一枚下ろしたのせていく。のせ直さないと屋根が直せない。だから単価的に高くつく。7億4,000万円で校舎も大きい。

Iw0.08が2棟あり、それも耐震構造の改修をしていくというのが凄いと感じた。Iw値が1.1以上。設計上ではあるができる。

八上小学校では、八上小学校で木造校舎を残すため、県のEーディフェンスを使って、実際に古い木組みでのテストをしていました。「これだったら持つ」という確信の中で住民に説明されたと思います。建物の安全確保が住民の願いであり、このことが表に出てこないとな納得できない。無理やり残すのではなく、安心して使える学校校舎にしてもらいたいと感じました。

村井公平委員長

委員の方から視察の所感を一応述べましたが、このことについて聞きたいということがありますら、お聞きいただきましたら良いかと思えます。

岡本芳雄さん

古西議員から「八上小学校の改修は当たり前の状況で始められた」とお聞きしました。これに関しても、建築学会先生方から聞いた話によると、一番古いもので言えば、法隆寺や改修中の姫路城です。代表的な木造建築物というのは、古くから修復して使い続けるというのが、本来の様式のものであると聞いています。今、国の耐用年数というのは、割り出されて35年と言われましたが、そのままだったら、そうなるかもしれない。しかし、姫路城もそうですが、骨だけにして、竹、木舞を組み、土を塗って漆喰を塗っていくこと。これはレプリカという訳ではない。それが普通です。古西議員が言われた、直して当たり前の状況から始まるのが、本来の姿ということですよ。

坂部議員が言われた木造の新築と変わらないのではないかという話ですが、古くからの工法で柱だけ残して元の様式に直す、直さなくていい所は直さない。悪くなった部分だけを直すので、柱だけにするというのもそれが普通のやり方であると聞いています。私もそうだと思います。

そういう技術が減ってきた理由の一つに、戦後、火事や焼夷弾、台風などによって被災した公的な大規模木造施設の改修はダメだというルールや規制ができ、50年か60年かは覚えていませんが、長期に渡って修復できなかつたため、その間に専属の職人が減った。その影響を受けて、木造建築物の技術者職人が少なくなった。さらに時代の流れによって、RC構造に変わってしまいました。

重複しますが、木造建築物は骨組みだけにして、また元の姿に修復するのが本来の姿であると聞いています。

前川貫治代表

「木造校舎をどのようにしたいのか」であります。もし改修と決まった場合、そこで再度検討されるかと思えます。いろいろなやり方があり、八上小学校の場合はほぼ現状を残した形です。高野口小学校は大幅に変える形で、どれがいいのかというのは今後の検討になると思えます。我々には権限はないと思えます。

ただ、このような改修ができるということをお願いしたいのです。必ずしも今の形を残せとは言っていない。今の西脇小学校にはたくさん問題がありますので。

西脇裕晃さん

こういった場所で話す時、どうしても技術論として、損得の話が一番出ています。私が思うには、学校というのは勉強を教えるだけの場なのかということ。例えば、なぜ学校に校歌があるのか。校歌の中には、その地域の歴史があります。西脇小学校の校歌にも歴史などの時代背景があります。その土地の山の名前や川の名前などが校歌の中にうたわれています。

西脇小学校の校舎自体は、そのまま体現したものが残っていると思えます。例えば、廃校になるような小学校でも校歌には歴史があります。西脇小学校は77年前からそこにそびえている。そこで何を学ぶのか、授業の算数だけでなく、数式だけでもないと思えます。

私自身、神戸市に住んでいたことがあります。現在、加西市に居を構えています。自分の子が小学校で学ぶ場合、絶対に西脇小学校の木造校舎で、私の親父が学び、私が学んだ学校で学ばせたい。それは鉄筋コンクリートだから西脇小学校に入れたいことではありません。その当時に遊んだ階段の手すりが未だに残っていることを子どもに伝えていきたい。これを子どもに伝えることが、地域愛を育てることだと思っています。

私は、青年会議所活動をしています。地元にも私と同じ若い世代が帰ってこないことを心配しています。これから先も続けば、西脇市に若者が帰ってこない。どんどん人口が減って、商売が立ち行かない状況にもなります。少なくとも、西脇市が栄えた状態をそのまま体現して残している校舎は、私たちにとって心の支えでもあると思えます。

活動をする中で、東京にいる方が何とかしたいと一生懸命に動いてくれました。そういうことがあり、今後、西脇市はどうしていくのかという話になった時、「古

いものは潰せばいい。」「あかん物は残さなくていい。」…それで本当にいいのか。自分たちが築いてきた歴史を守っていけるのかと強く感じました。

新しい物をつくることは簡単です。しかし、古いものを残しながら、自分たちの新しい形や今後をどうしていくのか。未来を示す上でも、校区は関係ないから、どうでもいいからと思っている方も多いです。西脇区だけかもしれないが、若者が帰ってきて西脇小学校で学ばせたい。そのようなまちづくりを築くのも大事だと思います。校舎の存廃を技術論以外に、今後の西脇市として、どう取り組むのかということも含めて検討してほしい。地元で商売している、あるいは子どもを育てている者の意見だと受け止めていただきたい。

高瀬 洋議員

私も西脇小学校出身です。年齢が57歳。高校卒業をして西脇以外で住んでいました。10年ぐらい前に西脇へ帰省した時、西脇小学校を見に行きました。その時は小学校のセキュリティが叫ばれた時でありました。正門は閉まっていたので、門の外から見ていると先生らしき方から質問され、「卒業生です。懐かしいので来ました」と答えると中へ入らせていただきました。そういった懐かしい思い出がありました。

こういう気持ちになるのは、卒業してかなり経ってからでないとも気持ちが沸いてこない。だから現役の人、保護者、若者の意見も必要です。私にその時に抱いた感情というのは、西脇さんが言われていたこととも共通します。そういう意味で、多数の意見が正であるという議論にはならないような案件だと思います。

今回、委員会でいろんな意見を踏まえながら、本当にどうしたらいいのかということを検討できる場ができたことは非常に良いことです。

先ほどの東京にいる方の話は私もそう思います。やはりふるさと納税とか、ふるさと西脇ということで、これからはどんどん外へ発信をして、もっとグローバルな形で西脇を見るという、そういう位置づけのモノの代表格として、もしかすれば西脇小学校があるのかもしれない。これはまだわかりません。これから検討していくなど、幅広い観点で、今後こういう問題をどうするかを検討できることは良かったと思います。

東野敏弘議員

一般会議に向けてたくさんの資料を作っていただいたことに感謝します。本当にわかりやすい説明です。その中で、前川代表が言われる木造が持つ意味を考え直さなければいけないと改めて思います。

鉄筋の中で学んで育つ子どもたちと、木造校舎の中で学んで子育てをする子どもたちの人間性豊かな部分という形は、私も自分の家に図書室を作っていて感じることがある。木造の机で子どもたちは学んでいくともものすごく落ち着くことを、自分の経験からもそう思います。そういう環境面を残すまちであるかどうか問われているのだろうと読ませていただきました。

最も疑問に思ったことは、木造は良いんだけど、トイレの問題やスペースの問題等言えば、鉄筋はできるが、木造ではできないのではないかということ。

前回の花田先生や腰原先生の説明では、十分改造できる形で新しく作り直す。そういう風なことが子どもたちの希望や先生方からの希望を入れながらできる。

技術的に可能であれば木造で学ぶ。そういう意味合いを、再度、考える必要性があるだろうと思います。

市内には、新しく西脇南中学校や双葉小学校ができました。この段階で、木造ということが議論になったらもっと良かったなと思ったりもします。

西脇小学校は、木造で景観形成重要建造物の指定を受けています。今、議論できることは良いことですが、西脇小学校だけでなく、西脇全体で議論できればと考えます。

西脇の教育問題であるから、西脇さんが言われていたように、西脇区の子もただけではなく、西脇市の子もたち、西脇市の若者たち全体に発信していくことを考えていかなければいけないと思います。そういった点では、皆さんに貴重な資料を作っていただき、大きな一歩を記されたことに感謝を申し上げたい。

村岡栄紀議員

私は昨年度、西脇南中学校が近代的な校舎になった時のPTA会長をしていました。それと元職が建築関係の仕事をしており、その経験から、住宅はスクラップアンドビルドからストックの時代と言われていています。坂部議員が快適性を言われましたが、住宅を新築したり、リフォームする時、設備や機能を快適にしなければいけない。

例えば、専門家の人は町屋に関してはあくまで保存と言われます。私も京都の町屋に、昔、住んでいたことがありました。非常に使い勝手が悪いが、ただ景観がいいから保存という意見が多い。世界遺産になった白川郷について岡本さんが言われました。法隆寺の問題もありますが、今、住めるかと言ったら白川郷の合掌造りに住むことは絶対に無理。不便で仕方がないと思います。

前川代表も言われた快適性に関して理解できる面もありますが、時代のライフスタイルの流れとともに生活動線が変わってきている。

その中で、昔からの建物の動線と、今の住宅の動線という点がクリアできるのか。西脇さんがおっしゃられたように、西脇小学校の問題を契機に、地域の方がコミュニティーをつくり、若い人たちが参画する。西脇小学校の問題に限らず、非常に意義のあることです。

どちらになるかはわかりませんが、木造保存となった場合に、昔の動線と今の動線は異なる、主婦の村上さんが新築される時、台所がこうなってほしいというお考えがあると思いますが、その辺りがクリアできればいいのではないかと。前川代表も改修になった場合、その辺りの詳細を考えていく必要性を言われましたが、これがポイントになる。

快適性と言え、私も木の良さはわかります。懸念ということではなく、絶対にこの躯体は抜かれないという場合などがあり、それが不便さに繋がるとどうなるのかということも一つ問題です。保存に反対ということではなく、ざっくばらんな意見を言わせていただきました。

岩崎貞典議員

自分なりに調査研究をし、当初は建て替えの気持ちでおりましたが、いろんな方から話を聞きますと、やはり保存の声の方が非常に多かった。理由は木の温かみがあること。それと、今回研究会に参加された方の中から、耐震補強できると

いう判断は間違いないこと。さらに、景観形成重要建造物の県の指定を受けており、このような建物が西脇には、西脇小学校しかないということなので、景観を残したまま改修する。

ただ、技術的なことを言いますと、廊下もめくって基礎工事をするということです。窓も廊下もやりかえる。天井も貼りかえる。そうすると中身はほとんど、新しいものになる。外観だけを残して中身はほとんど変えてしまう。

そして、トイレや下駄箱の問題を子どもに聞きました。そうすると、トイレが汚い・臭い・キモいと言っていました。その中で、学童保育に行っている子どもから、去年の6月にシラミが発生したくさんの方にうつった。シラミは天井から沸いてきますので、天井と和室から発生した。やはりそういったことも含めて、完全にクリアした上で考えてほしい。

それと最終的にはコストの問題です。これはどれくらいかかるかはわかりませんが、おそらく10億円はかかるのではないかと。それと年数です。

平成元年に西脇小学校の会長をしました。実は、この時に大改修しました。保護者全員に寄っていただき、図書館の本の移転など大変でした。それから25年経ちますが、建て替えとなれば、おそらく35年か40年は持つと思います。これだけのお金を投入して、25年でまた投入するのはいかになものかという意見もありました。

岡本芳雄さん

花田先生は木造校舎の日本のトップの方です。その方から言えば、私のように短い期間で勉強した知識はわずかだと思います。

八上小学校や今回景観形成重要建造物になる高野口小学校を見に行きました。高野口小学校は平屋であり、もともと耐震率も高かったようです。壁は取り払わず土壁のまま漆喰を塗り直している。木材もほとんど変えず、見た目には変わっているのは、天井が防火のために改良されて白く、配管工事は床をバリアフリーにするため手を加えています。いつでも原状復帰ができる状況でした。

坂部議員の木造校舎の新築にかえることとの違いのご質問ですが、例えば、來住亭は時価50億円です。建築専門の方の意見として聞いたのですが、今の西脇小学校木造校舎の完全な改修工事に10億円、それとRCの新築改築工事も10億円かかるとしたら、どちらも同じ値段の工事費ならどちらでもいいと思われませんが、戦前の古い時代の木造はものすごくお金がかかっています。材木にしても、変えなくて済むところは変えなくていい。腰壁一つとっても、昔のような腰壁は再現不可能です。今では節だらけのものしかないですし、柱一つとっても、昭和12年に西脇小学校が建てられた時の丈夫な柱は買えません。

そういう中から試算した訳ではないですが、10億円かけて新築の建物のそのものの価値と、古いけれども木造校舎の価値は、改修にかかるお金では買えないものだと聞いています。

前川貫治代表

質問がありました改修費用と耐用年数の問題ですが、委員会でも説明していますが、表紙の裏側に過去の改修費用を書いています。八上小学校は1億4,000万円、日土小学校が4億6,000万円、ここは内部をかなり変えて一部新築されてい

ます。

翠小学校はエコ改修で、太陽光パネルから、ペアガラスから、風力発電等で3億5,000万円、高野口小学校が4億6,000万円、篠山小学校で7億4,000万円、ここは5棟あります。2棟はジャッキアップだそうです。ですから単純計算では篠山小学校に近いので、1棟1億5,000万円、西脇小学校は3棟なので5億円もあればできると思います。

後は内装をどうするかで違いますが10億円はかからないと思います。11月10日の勉強会で腰原先生が言われたのは、「あと何年持つか」については、メンテナンスが必要だが100年は持つ。それは設計強度によってと聞いています。

平成の大修理でいくらかかったのかは、市教員からの返事がなかったので参考になるかと思います。何10年かに1度はメンテが必要だが、解体するような大工事は当分はいらぬ。鉄筋の場合でも永年ではありませんので、鉄筋に関しては、どれだけでもつかはわからない。

興味があって調べてみたのですが、日本で一番古い鉄筋住宅は、長崎の軍艦島の労働者向けの住宅で1916年、今廃墟となっています。40年前に閉山しているので参考にならないですが、東京都の同潤会アパート、これは10数棟あり、一番長く持ったもので84年、最短で老朽化による取り壊しで55年、平均69年、西脇小学校はこれを超えておりますので、鉄筋が丈夫ということは伝説という感じがします。エンパイアステートビルは今年83年目で、100年を超えていません。

高橋博久議員

昨日、内藤さんと出会う機会があり少し話をしました。「3棟とも残さない」と景観形成重要建造物とならない」…どうもそうみたいです。

それと西脇さんが言われましたが、私は日野小学校卒業ですが、日野小学校も結構良かったんです。今は残っていませんが。西脇小学校だけですよね。潰すなら一番簡単だと思いますが、潰してしまってから、「しまった」では遅いと言うのが私の思いです。

そのような中で耐震補強をし、学び舎として、そのまま使っていくのはどうなのかと、昨日内藤さんとこの話をしました。

どういう残し方が良いのか、今、その思いが一つあります。当然、子どもの数は減っており、結果的にどのような検討委員会の答えが出てくるのか、そういうことも含めて検討してもらいたいと思います。

ところで皆さんは3棟とも残して学び舎として使う、これが大前提とお考えになっている。それと、外観が一番大事かと思いますが、内側ですね、例えば天井など、高野口小学校のように二重にしたり、そういう所はどうなのかと思っています。

私は、例えば浴衣が古くなったから捨てるのではなく、洗い続けた浴衣をおしめに使用するとか、その後は雑巾にして使うとか、そういう観点で考える必要もあるという思いです。

越川誠司さん

先ほど高橋議員も言われた景観について、私なりに考えたことを皆さんと認識を共有したいと思います。前川代表から話がありました景観形成重要建造物です

が、なぜ、西脇小学校が他の篠山小学校や八上小学校を差し置いて、県内で唯一、景観形成重要建造物になっているのかを考えました。

2月11日の勉強会のチラシの写真にも大きく扱っているんですが、3棟並んだ景観は、後ろに山を拝した借景、余分な住居や景観的に他の余分な要素がまったくない景色が実現しています。昔からそうなんです。

先ほど、道に面して目立たなくて見えにくい、親近感が地域に方に薄いんではないかというご意見もありましたが、私が、西脇小学校を訪れて思ったことは、まるで昭和の時代にタイムスリップしたような感覚がある訳です。それは、昔のおじいさん・お父さんの変わらない貴重な時代の風景なんです。そのことを改めて皆さんに訴えたい気持ちもあり、写真を扱っている次第です。

南棟1棟を残して、景観がゼロかどうかの話がありましたが、景観形成重要建造物として継続していけるかということかなり難しく無理だと思います。やはり、3棟があってこそ景色が山並みと調和する。この景色が素晴らしいことが、県の方でも認識されての指定だと思います。

景観という概念は、日本ではあまり重んじられていないと思いますが、高野口小学校を伺って残念だと思ったことは、校舎自体は素晴らしく、綺麗に修復されて昔からの姿形を留め、改修も修復されている。ただ、見たときに3階建ての医院の建物が奥の方に見えている。病院です。写真を撮ろうと思った時に、その病院がなかったらいいなと、そんな感想を持ちました。

また、プールが校舎の端に添えつけられているんです。高野口小学校の事情ですから私どもがいうことではないですが、トータルの景観としては、台無しになっているとの認識を持ちました。

こうして西脇小学校を振り返った時、この学校の景観の価値はものすごいものがあるということ改めて思いました。景観についての私なりの思いです。皆さんにもその辺りを考えていただけたらと思います。

あと1点、高野口小学校のことを言いましたが、改修に関して、最も西脇小学校に近似した校舎で、年代も一緒に、古い校舎を今の教育事情に合うように改修するか、使い勝手を良くしていくか、子どもたちにとって、素晴らしいモデルケースだと思います。

議員の皆さんも、高野口小学校の視察に行っていたらと思います。

村上史路さん

先ほど村岡議員が主婦目線で…と言われましたが、今から検討委員会で、改修か新築かの議論がされる訳です。私どもは3棟保存です。保存したらそのまま使うのかと高橋議員も言われました。今、昔からのお家に生まれ、リフォームする場合、主婦の意見等を参考されることと思います。

リフォームして使いやすいようにする訳です。学校も、今のこの形を残しながらリフォームするとなれば、いろいろな間取りを変えていく必要があると思います。トイレは現在外にあります。それを校舎内に設置したり、エレベーターも設置したりする。身障者や車いすの子どもが快適に過ごすことも含めての改修を希望している訳です。

私たちは、この活動をしている中で、いろんな方と話していく機会がありました。西脇小学校の卒業生以外の方も、西脇小学校を実際に見て美しいと思われる

方もたくさんおられます。映画にも取り上げられました。私自身が全国の小学校を見に行くことは無理ですが、一般的にも個人的にも、西脇小学校の木造校舎は素晴らしい景観だと思っています。お話をすることで沢山の署名もいただきました。それを皆さんもご覧になってくださっていると思います。

そして小学校に通うのは6年間です。卒業してからの人生は長い訳です。西脇小学校の卒業生や近辺に住まわれている方も、現在、インターネットで西脇小学校のことを載せておりますので、西脇小学校を見て美しいな、いいなと思ってくださる方もたくさんいます。木造校舎を保存することについて、6年間の子どものたちの学校生活が快適に過ごせる改修はもちろんのことです。

先ほど言われた高瀬議員さんも57歳で訪れて、すごく懐かしかったとおっしゃるように、現在70歳や80歳の方々、私の母も77歳です。この西脇小学校と同年代です。西脇小学校は77歳、喜寿です。それぐらいの年代の建造物は懐かしい訳です。訪れなくても写真を見ただけでも懐かしく思います。それが心にどれだけ響くか、懐かしがられて残っていることが大事だとも思います。

景観というのは、まず心に響くものがあるから景観形成重要建造物に指定されているのです。これをずっと残すことによって、記憶が心に響く卒業生が今からどんどん増えていきます。それが私はとても大事だと思います。潰すことや取り壊すことは簡単です。しかし、取り壊してしまったら、今まで記憶を持った人の記憶や思い出を全て取り壊すことになってしまうのです。その辺りのことも考慮して、今からの検討委員会の方で議論していただきたいと希望しています。

耐震補強などの改修は、専門家の先生にも木造校舎の西脇小学校は耐震補強改修できると明言していただいています。そういった問題はクリアできています。新築のコンクリートの建物を建てるのか、今の木造校舎を残して改修して、たくさんの方たちの思いをそのまま継承させていくか。その2点です。

私たちはたくさん署名をいただいている方の代表として、この場に座っていると思います。今ここに座っているのは5人ですが、たくさんの方の思いが後ろにいることを委員の人たちも、今から検討委員会に入られる方も考えていただき、話し合いをしていただきたいと持っています。

村井公平委員長

まだまだ発言希望があろうかと思いますが、予定しておりました時間がまいりましたので、今日の一般会議はこれで終わらせていただきたいと思います。

12月議会で、検討委員会の設置条例が可決され、今は準備中であります。今後検討委員会でいろいろと検討され、今の予定では、8月中に結論が出るのではないかと聞いております。

その後、議会としても議員としても判断していかなければいけない時期がまいります。今日お聞きした意見等を踏まえ、判断していきたいと思っています。今日は早朝からご苦労様でした。これを持ちまして、一般会議を終了させていただきたいと思います。ご苦労様でした。ありがとうございました。